

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200108		
法人名	有限会社 響福祉グループ		
事業所名	グループホームゆらり 1		
所在地	和歌山県田辺市上ノ山1丁目19番23号		
自己評価作成日	平成24年12月10日	評価結果市町村受理日	平成25年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3092200108-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんなで支えあい、ひとり一人が役割を持ち、協力し合う事で生きる意欲を引き出し、その人らしく生き生きと暮らせる」という会社の理念の元、職員が共通認識し、日々勤務しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、理念に「みんなで支えあい、一人ひとりが役割を持ち、協力し合う事で生きる意欲を引き出し、その人らしく生き生きと暮らせるように」と謳い、理念に基づいたケアが実践出来るよう日々協力して取り組んでいます。健康を第一に考えて食事のカロリーとバランスに配慮したり、利用者の気持ちに寄り添いながら何気ない会話で聞かれた言葉にも耳を傾け、思いや要望を叶える事で認知症の予防に繋がりたいと考え、管理者や全職員が一丸となって利用者に関わっています。面会に来られた方が、役割をもって活き活きと調理を担当している利用者の様子を見て、できる事や力が発揮できる場があることを理解し喜ばれるなど、職員もやりがいを感じながらより良いケアに向けさらに努力して取り組んでいる事業所です。

項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで支えあい、一人ひとりが役割を持ち協力し合う事で生きる意欲を引き出し、その人がその人らしく生き生きと暮らせるよう努めている	職員と一緒に作った理念の基、あらゆる生活の場面で利用者の声に耳を傾け、自らできる事はしてもらえよう見守りながら、日々の生きる意欲に繋げていけるよう全職員がケアの場で理念を意識し、一丸となって取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が大正琴の演奏にきてくれる。散歩時など近所の方と挨拶をする	町内会に入ったり、地域で子供を守る取り組みである「紀州君の家」に登録しています。高台に位置していることで避難場所となったり、近隣の小学校との防災の協力関係も築いています。大正琴のボランティアがホームを来訪し、近所の方からの差し入れや散歩途中で草引きをし挨拶を交し合うなど、地域との繋がりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者の方に機会があれば説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2月に1度定期的に行っている	会議は家族代表や町内会役員、地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月毎に開催されています。運営推進会議の趣旨について話し合ったり、ホームの現状や行事報告、空室状況等を伝え意見交換をしています。欠席の家族には結果を郵送しています。意見交換をする中で「家族会」が結成され、クリスマス会と感染症の勉強会も兼ねた第1回家族会が開催されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	田辺市包括支援センターやすらぎ対策科と連絡を取っている	管理者の交替時に市の担当者と顔合わせをしています。相談事や空室状況等について電話やメールで行い、市からは地域の感染情報をもらう等、市との関係が築けるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は一切行っていない	月1回の職員会議で身体拘束をしないケアについて周知するように徹底し、言葉による利用者の行動制限に繋がっていないかを振り返り、尊厳をもって接するように努めています。玄関は開錠し外に出たい方には一緒に外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けて、施設内で伝達している		

グループホームゆらり1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持てていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、毎月のお便りなどで意見をお伺いするようにしている	面会時に利用者の状況を伝えながら言ってもらい易い雰囲気心をかけて意見や要望を聞いています。毎月の便りや電話でも利用者の様子を伝え、意見を聞くようにしています。面会時にホームの前の車の往來が激しく道路事情への心配が提起され、ガードレールの設置要望等検討課題として取り組む等、率直に意見が出されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見はいえる。つき1回業務改善委員会を行っている	管理者は日々職員に気配りの声かけを行い、意見や相談事が言いやすい環境作りに努めています。毎朝の申し送りや月1回の業務改善会議でも意見や要望を聞いています。休憩時間やシフト、認知症の心理についてなどの意見が出され、出された意見は全職員と共有し話し合い運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行えている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の高い方は難しい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	昔の行きつけの店に出かけたり、正月に神社や寺に初詣に行っています。また、家族と墓参りや結婚式、法事、自宅へ外泊する等、今までの馴染みの人や場所の関係が継続できるよう支援しています。付き合いのあった友達から誕生日には今も花束を送られて来る等、入居後も変わらず交流が続くことを大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会が殆どないので出来ていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向に沿うように努めている	入居前に自宅を訪問し、生活歴や暮らし方の希望等を本人や家族から聞き、入居後は日常の様子を個人記録に記入し、職員の日々の関わりや気づきからも利用者の思いを把握し、職員間で共有しています。思いを表わす事が困難な時は家族からも聞き取り、意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している	計画作成者が中心となり本人や家族の思いに基いて職員と話し合い、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。3ヶ月毎に1回のモニタリングを行い、6ヶ月で見直しをしています。変化のある時はその都度見直し、医師や看護師の意見も聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活にメリハリをもたせ、また、季節感を味わうため、公園や梅林に外出する機会を設けている		

グループホームゆらり1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている	入居前のかかりつけ医を全員の方が継続し、家族が対応しています。それぞれのかかりつけ医による往診や緊急時の往診の対応等、看護師と連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援しています。歯科や皮膚科、眼科も適宜往診があり、訪問看護も2週間に1回健康管理に来ており、医療面のバックアップは整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行えている 受診ノートを活用している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族主治医と相談しながら進めていく	重度化や看取りについてはホームで出来る事と出来ない事を伝え、本人や家族の希望があれば可能な限り対応する旨を入居時に説明しています。医療面での協力体制も整え、重度化や看取りについて医療、家族、職員等と相談し合いながら取り組んでいます。また、看取りについての研修も開く予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員が行えるが、今後全職員が行えるよう努める		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の避難訓練を行っている、来年から、訓練機会を増やして生きたい	年1回、自主訓練を実施しています。発生場所や避難経路、避難誘導の訓練を行い確認合っています。今後は消防署の協力を得て、消火器訓練やAED講習の他、昼夜想定訓練、民生委員への呼びかけを考えています。ホームが高台に立地している事で地域の避難場所に開放されたり、小学校との防災訓練の協力関係も築かれています。	訓練への消防署の協力を依頼したり、訓練の回数を増やされ、災害時の対応を強化されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している	入職時に声のトーンや方言について話し、丁寧な言葉遣いで対応するように指導しています。大きな声を出さない事やノックをする、言葉遣いが荒々しくならないなど、具体的に説明し一人ひとりを尊重した対応とプライバシーを守るケアを心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援するように努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は介護度の高い方は難しいが、食事は楽しんでおられる	利用者の得意な事を活かし、配膳や下膳、台拭き、豆の皮むき、味見等の役割分担を持ってもらい、職員と共に食事作りの楽しさを感じながら調理に参加してもらっています。メニューは職員が利用者の好みを聞いて立て、リクエストがあれば臨機応変に変えています。回転寿司に出かけたり、買い物時にソフトクリームやコーヒーを飲む楽しみが味わえる支援もしています。職員も同じ食卓で同じ物を食べ会話を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している		

グループホームゆらり1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行えている	オムツの中に排泄する本人の気持ちを考え、職員はこまめにトイレ誘導した結果、紙おむつからポータブルトイレでの排泄に変わったり、車椅子から腹圧を考えてポータブルトイレに座って貰う事で紙おむつの使用が減る等、排泄への自信を取り戻して貰えるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほぼ行えている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来ていない	毎日入浴可能で日中の時間帯でその方が希望する時に入浴出来るよう臨機応変に対応しています。同性介助での入浴やゆず湯、よもぎ湯でリラックス気分を味わって貰ったり、温泉地を活かした足湯場にも出かける等、入浴を楽しめる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほぼ行えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり行えていない	玄関を出て外気浴をしたり、個々の希望にそって散歩に行っています。近くの公園や花火大会、簡保の宿への外出やドライブに出かけています。また、以前働いていた場所や友人とカラオケに行ったり、その方の希望を尊重し行きたい所に行ける支援を心掛けています。	

グループホームゆらり1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行えていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行えていない、希望が無い		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている	日差しが入る玄関にはベンチが置かれ、気分転換の場となっています。リビングは換気や加湿器設置で快適さに配慮し、皆で過ごせるソファの配置や、一人になれる空間を作り、各自好きな場所に座り、テレビを見たり、編み物をしたり、調理をしている様子を見ながらとゆったりと過ごされています。ホームの壁にはボランティアによる季節の折り紙細工や利用者の作品が飾られ、四季の移り変わりが感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行えている	家で使っていたタンスやリクライニングチェア、仏壇等を持ち込み、馴染みの物に囲まれて、安心してくつろげる居室となっています。趣味の書籍を読んだり、折り紙細工を飾り、裁縫や編み物でリサイクルをする等、その人の趣味が楽しめる居心地のよい居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行えている		